

○事業所名	APIMo中山教室[児童発達支援]		
○保護者評価実施期間	R6年 7月 1日 ~ R7年 6月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	R6年 7月 1日 ~ R7年 6月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 7月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	研修体制、会議制度	事業所内研修は毎年、年度始めに年間予定を立て実施しています。今年度は9回の実施予定で事業の質の確保・向上、人材育成、そして法令遵守の為に必要な研修を行っています。基礎研修では放課後等デイサービスの目的・法的根拠、発達障害や特別な支援が必要な子どもへの理解、個別支援計画の読み方と実践等、座学やグループワークを取り入れた独自の研修を行っています。その他、安全管理（事故・感染症・災害時対応など）や虐待防止・権利擁護等の義務化された訓練や研修を法令に基づいた必要回数、必ず実施しています。	これまで以上に、地域の研修（自治体、振興会主催の研修等）、民間団体や研修機関によるテーマ別講座（行動支援、虐待防止等）、指定研修の受講（児童発達支援管理責任者研修、強度行動障害支援者養成研修）等、職員各々のキャリアステージに応じて積極的に職員を派遣して参ります。 また保護者様へ向けた研修会の開催等、ご家庭と事業所が連携することで、子どもにとって最適な支援環境を整えることができるよう積極的に企画、実施をしていきたいと考えております。
2	相談への迅速な対応、	法人本部、管理者、児童発達支援管理責任者が常に連携を取り合い、ご相談やご要望にもすぐにご対応できる体制があります。緊急性のある内容にはその場で判断・調整を行えるなど、現体制では法人本部と現場の密な連携により、組織として支援をバックアップできる運営が可能となっております。	「困ったときにすぐ相談できる」 「安心して任せられる」 そんな声をいただけるよう、今後も組織全体で支援の質を高め、迅速かつ丁寧な対応を徹底してまいります。
3	運営規定の遵守や個別支援計画に沿った支援体制、各マニュアルの整備	運営規定や各種マニュアルについては事業所内に常備し、いつでも職員が閲覧可能な体制を構築おり、研修と連携させ定期的にマニュアルの読み合わせや事例検証を実施し、内容の理解と実務への落とし込みに努めています。支援記録やモニタリングなども、規定に基づいた適切な流れで管理し児童発達支援管理責任者が作成する個別支援計画に沿って「目的・方法・担当」を職員間で共有し、一貫した支援を目指しています。	まだ開所から1年の若い事業所ですが、職員の経験や研修での学び等、着実な積み重ねにより、大いに伸びしろのある事業所だと自負しております。職員一人ひとりの「判断力・連携力」を高め、ご家庭や関係機関との更なる信頼関係の構築へとつなげられるよう一層、努めて参ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者等の外部評価、スーパーバイザー	開所して1年目ということもあり、現時点では第三者による外部評価や専門的スーパービジョンの導入体制が十分とは言えませんでした。ただし、近隣の支援機関、学校、その他関係機関等との連携が徐々に築かれてきており、地域資源とのつながりが広がりはじめたことで、外部支援を取り入れるための土台が整ってきました。 地域ネットワーク会議や事業所連絡会などにも積極的に参加し、外部評価やスーパーバイザーにつながる情報の収集や関係構築を図って参ります。	9月に、かながわ福祉サービス振興会による運営指導の実施予定となっております。評価結果を職員会議等で共有し、改善計画を立てて更なるサービスの質の向上に努めて参ります。 外部専門家を招いたケース検討会や支援内容や困りごとに対して多角的な意見交換ができる場を設ける等、スーパーバイザーの積極的な導入を検討します。また今回の事業所評価を保護者様の第三者的視点として運営に反映させて頂きます。
2	支援前後の共有や擦り合わせ、プログラムのチーム立案	[課題] ・支援後も送迎、記録業務に追われ、振り返りや情報交換が後回しになることがある。又、長期休み中は出勤直後すぐに送迎業務、支援が始まり、事前打ち合わせの時間が限られており十分に確保されていない。 [振り返り] ・職員の残業対策や情報共有の効率化の為『療育ノート』を活用し効率的な情報共有フローを構築、実施しているが、十分に活用されているか？職員間で改めて確認を行いました。 [プログラムのチーム立案について] ・現在APIMoでは、児童指導員、保育士等がそれぞれが担当プログラムを持っており、企画から実施までの責任を担っています。担当職員のためのルーティンワークとならないよう、職員間のアイデアの共有や管理者、児発管への事前の相談、確認、修正をもってチーム立案とすること等を改めて確認し、現行のプログラム内容をよりブラッシュアップできるよう企画書の作成、事前周知事項の見直し等について検討をした。	改めて、事業所内の『療育ノート』の積極的な活用を職員にお伝えし、改めて業務時間内で効率的に必要な情報を共有するシステムの見直しや実際に運用するにあたっての修正点等を議論しました。現行のシステム、及び修正点が効率的に機能するよう、具体的な活用方法等を児発管から各職員へ周知しました。 プログラムに関しては、活動内容や課題の具体的な実施方法やねらい、目的等の共有を事前に十分に行えるよう、時間の確保を積極的に行っていくことを職員間で確認しました。学校休業期間に関しては朝礼の時間が限られている分、終礼の時間を十分に確保し支援事後の共有や実施プログラムに関する事前周知を徹底して参ります。 プログラムの立案については、企画準備段階での管理職者への確認、相談をより徹底しながら、担当者の主観に偏らない支援プログラムを提供できるよう努めて参ります。

3	地域連携や幼稚園、保育所等各機関との連携、ペアトレや家族交流	当事業所では、地域の幼稚園、保育園、学校、相談支援事業所などとの連携について、「要望がある場合は積極的に実施する」というスタンスで取り組んでまいりました。しかし、現状として他機関からの連携依頼が少なく、実施件数は限定的となっています。これは、開所からの期間が浅く、関係機関との信頼構築、認知度がまだ十分でないことが一因と考えられます。また、事業所側から積極的に提案する機会が少なかったことも、結果的に「受け身の連携姿勢」となりました。地域との交流に関しては、土曜の支援テーマを「地域交流」とし月1～2回程度、近隣施設へのお出掛けやボランティア団体を招いたイベントを企画しています。こちらをご利用者様への周知、認知も薄かったかと思しますので次年度からは実施方法や周知面での改善策を検討します。	保護者支援においては、年に2回の機会（①保護者会での交流、②8月に予定しているふれあい祭り）を通じて家族同士の交流機会を設けております。しかし、今回実施した事業所評価アンケートにおいて、ペアレント・トレーニングのような学びの場や、保護者交流の機会への要望が高いことが分かり当事業所としても頻度の見直しや実施方法や内容の前向きな検討を致します。 又、別紙のアンケート結果では、「保護者観覧日」等、普段の支援の様子を見学できるような企画のご要望もございましたので支援の見える化、透明性、質の向上の機会として企画検討致します。
---	--------------------------------	---	---

	その他、アンケート結果やご要望等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の様子の伝達や共有に関して、支援計画に沿ってどうだったか？という観点で具体的な伝達があると嬉しい。HUGの提供記録の内容も薄いのが気になっている。	送迎時の伝達事項が、職員によってばらつきがあるというご意見も頂きました。HUGの提供記録の書き方や、送迎時のお伝え事項について改めて職員へ基準値を明確に周知致しました。ご利用者様がこういった情報をご要望か？等、今回のアンケート結果を共有し皆で認識の擦り合わせを行っております。
2	活動イベントもあまり偏りがないように組んでもらえると様々な体験ができて良いと思う。	お出掛け、買い物支援、調理等は月毎に曜日が重ならないよう配慮し月間のプログラム予定を作成しております。確かに年に数回のイベントに関してはご契約曜日へ回ってくるまでにかなりの時間を要することになるかと思えます。受容の高いイベント頻度の見直し等も行いながらできる限りでご希望に添えるよう努めて参りますのでご理解を頂ければ幸いです。
3	HPやLINE@の更新頻度や内容に関して、もっと活気のあるイメージを持てるようにして欲しい。又、子ども様子や活動内容が分かる投稿が増えるとよい。	LINE@での活動報告、お子様や支援の様子に関しての投稿が、とてもご要望が高いことを確認しました。こういった配信がご希望か？等、今回のアンケート結果を職員で共有しております。更新頻度の見直しも行い、皆さまに楽しんで頂ける、且つご要望に添えるコンテンツとして運用できるよう努めて参ります。HPに関しても更新担当を決める等、運用方法を改めて参ります。